

SCT-Bの反応パターンとYG性格検査

—— 男女別の検討 ——

A Relationship between the SCT-B Response Patterns and YG Test : On the view of sex difference

小林哲郎

1. はじめに

SCT-Bは精研式文章完成法の刺激語（家庭、身体、社会の3領域との関係を考慮して選んだ25項目）を呈示して文章を書かせた後に、「が」という接続詞を用いて全体が1つの文章になる様に、もう1つ文章を書かせる課題である。SCT-Bは施行時間の問題上刺激語の数は制限されるが、「が」の前後での反応の変化にその個人のパーソナリティが反映される。

筆者は、このテストをいくつかの大学等で施行し、「が」の前後の変化にいくつかのパターンがあることを見出した。その反応パターンには以下のようなものがある。

1) <肯定・否定>

前半で肯定（否定）的感情を述べ、後半で否定（肯定）的感情を述べるパターン。

2) <肯定・肯定>

前半でも後半でも肯定的感情を述べるパターン。

3) <否定・否定>

前半でも後半でも否定的感情を述べるパターン。

4) <例外>

前半で肯定（否定）しておいて、例外的な否定（肯定）面を述べるパターン。このパターンにはいくつかのバリエーションがある。たとえば前半で肯定（否定）した事物や事象について部分的に否定（肯定）することもあるし、限定された状態になると問題が生じるというような表現もこのパターンである。

5) <受容>

前半では否定的感情を述べるが、後半でそれを受容するパターン。

6) <拒絶>

前半では受容したものの後半で否定的感情を述

べるパターン。

7) <理想・現実>

前半で理想、願望、原則などを述べ、後半では実際の状況、現実的問題などを述べるパターン。

8) <期待・不安>

前半で期待、希望を述べ、後半ではそのことについての不安を述べるパターン。

9) <過去・現在>

前半、後半で過去と現在の違いについて述べているもの。ただし英文法でいうような大過去と過去の関係の中で違いに言及しているものもこのパターンに入れる。

10) <希望>

前半で述べた内容に関して後半で希望、願望を述べるパターン。

11) <不安>

前半で述べた内容に関して後半で不安を表明するパターン。

12) <決意>

前半で述べた内容に関して後半で決意や努力を表明したり原則、理想を述べるパターン。

13) <自己>

前半で述べた内容に関して後半で自分に関係づけるパターン。

14) <説明>

前半で述べた内容に関して後半で説明したり気持ちを述べたりするパターン。

同じ文章の繰り返しや刺激語に手を加えたりしたものは<その他>とし、後半に反応がないものと疑問反応（意味の分からないもの、「が」を格助詞として使っているもの）を除いて、以上のどれかに評定する。

この反応パターンの評定に関しては、小林哲郎（1985、1986、1985〈学会発表〉）に詳しく解説した。

この反応パターンについては、MMP I、集団TAT、P-Fスタディ、集団ロールシャッハ等との相関が検討された。また、Y-G性格検査と反応パターンとの相関についても学会で発表されたが、学会での口頭発表なので、時間的な制約もあり十分なものではない。特に、MMP Iとの相関を男女別に検討した時に見られたような性差は検討する必要がある。

本論文では、Y-G性格検査とSCT-Bの反応パターンとの相関を男女別に検討し、分析することを目的とする。

2. 方法

1985年度から1988年度までの本学の心理学受講学生で、授業中に施行したSCT-BとY-G性格検査の両方とも受検した学生のデータを集計して、全体と男女別、計3つの相関マトリックスを算出した。全体の人数は235名平均年齢19.0歳、男性は126名、19.2歳、女性109名、18.9歳であった。

3. 結果と考察

全体、男性、女性のSCT-Bの反応パターンとY-G性格検査の相関はそれぞれTable.1, Table.2, Table.3のようになる。

ここで各反応パターン毎に相関のあったものを取りあげ結果を検討するが、MMP Iとの相関も男女別で検討を加えているので、その結果と比較しながら考えることとする。

* <肯定否定>

このパターンは女性のG（一般的活動性）と全体のGで負相関がある。したがって、<肯定否定>の多い人は不活発で仕事が遅いというような特徴があると思われる。また、全体でC（気分の変化）、O（主観的）と正の傾向があるので、多少感情的だったり空想的な傾向があることも考えられる。しかし、MMP Iでは抑うつ性が低く、女性的であるという結果が出ているので、温順とかおっとりしているという感じを与える人であろう。そして、女性で<肯定否定>の多い人は特にその傾向があるものと思われる。

Table 1 SCT-Bの反応パターンとY-G（全体）

	肯定否定	肯定肯定	否定否定	例外	受容	拒絶	理想現実	期待不安	過去現在	希望	不安	決意	自己	説明
A系統値	-0.027	-0.011	-0.066	0.024	-0.021	0.034	0.006	-0.080	0.119+	0.008	0.034	-0.110+	-0.132*	0.132*
B系統値	0.089	0.026	0.132*	-0.031	-0.052	-0.005	-0.060	0.098	-0.109+	-0.094	0.043	-0.029	0.046	-0.031
C系統値	-0.084	-0.019	-0.088	0.020	0.073	-0.025	0.072	-0.037	0.008	0.092	-0.074	0.136*	0.079	-0.091
D系統値	-0.005	0.094	-0.001	0.104	-0.071	-0.006	-0.044	0.127+	0.055	-0.007	0.036	0.037	0.031	-0.054
E系統値	0.007	-0.084	0.046	-0.124+	0.088	-0.020	0.052	-0.078	-0.138*	-0.003	-0.065	0.039	0.073	-0.035
D（抑うつ性）	0.089	-0.031	0.080	-0.075	0.038	0.024	0.003	-0.048	-0.157*	-0.039	-0.008	-0.110+	0.042	-0.006
C（気分の変化）	0.113+	-0.040	0.038	-0.037	0.004	-0.002	-0.012	-0.055	-0.185**	0.010	0.003	-0.070	0.020	-0.017
I（劣等感）	-0.035	0.046	0.145*	-0.132*	0.039	0.004	0.024	0.036	-0.069	0.028	0.056	0.006	0.046	-0.059
N（神経質）	0.036	-0.040	0.087	-0.076	0.055	-0.016	0.060	0.009	-0.016	-0.031	0.006	0.003	-0.018	-0.054
O（主観的）	0.119+	0.009	0.129*	-0.047	0.056	0.021	-0.001	-0.054	-0.076	-0.078	0.020	-0.136*	-0.007	-0.045
Co（非協調的）	-0.084	-0.083	0.051	-0.110+	-0.006	-0.028	0.101	-0.086	-0.057	-0.040	-0.045	-0.107	-0.010	0.107
Ag（攻撃的）	-0.075	-0.025	0.132*	0.019	-0.097	0.028	-0.056	0.066	0.026	0.023	0.019	-0.071	0.024	0.097
G（活動的）	-0.129*	0.010	-0.011	0.081	-0.053	-0.023	-0.049	0.080	0.059	-0.017	0.080	0.004	-0.049	0.115+
R（のんき）	0.026	0.108+	0.047	0.037	-0.099	0.029	-0.094	0.060	-0.058	-0.047	0.165*	-0.063	-0.013	0.027
T（思考的外向）	0.045	0.045	-0.025	0.022	-0.046	-0.058	-0.060	-0.129*	-0.051	0.039	-0.070	0.017	-0.027	0.096
A（支配性）	0.032	0.067	0.010	0.057	-0.119+	0.016	-0.062	0.153*	0.050	-0.081	0.029	-0.021	0.014	0.028
S（社会的外向）	0.014	0.074	0.027	0.060	-0.073	0.018	-0.111+	0.102	0.005	-0.065	-0.008	0.041	0.029	0.036

P < . 10

P < . 05

P < . 01

Table 2 S C T - B の反応パターンと Y - G (男性)

	肯定否定	肯定肯定	否定否定	例外	受容	拒絶	理想現実	期待不安	過去現在	希望	不安	決意	自己	説明
A 系統値	0.074	-0.050	-0.025	-0.015	-0.049	0.080	-0.130	-0.025	0.162+	0.068	0.001	-0.187*	-0.078	0.177+
B 系統値	0.045	0.031	0.119	-0.094	-0.064	-0.026	0.048	-0.000	-0.081	-0.113	0.096	0.057	-0.008	-0.033
C 系統値	-0.120	0.027	-0.105	0.098	0.112	-0.043	0.094	0.014	-0.066	0.048	-0.088	0.119	0.090	-0.135
D 系統値	-0.027	0.092	-0.024	0.094	-0.075	-0.124	-0.062	0.145	-0.023	0.009	0.061	0.191*	0.019	-0.041
E 系統値	-0.036	-0.037	0.040	-0.096	0.111	0.059	0.174+	-0.134	-0.099	-0.069	-0.061	-0.049	0.053	-0.089
D (抑うつ性)	0.069	-0.065	0.102	-0.091	0.071	0.056	0.048	-0.182*	-0.105	-0.115	-0.034	-0.126	0.049	0.001
C (気分の変化)	0.083	-0.058	0.034	-0.064	0.056	0.068	0.070	-0.077	-0.151+	-0.057	0.008	-0.070	0.022	-0.035
I (劣等感)	-0.039	0.018	0.075	-0.162+	0.112	0.093	0.101	-0.035	-0.048	-0.004	0.057	-0.054	-0.019	-0.038
N (神経質)	0.040	0.008	0.042	-0.080	0.050	0.038	0.133	-0.033	0.022	-0.001	-0.018	0.017	-0.002	-0.099
O (主観的)	0.101	0.036	0.116	-0.115	0.071	0.057	0.054	-0.059	0.036	-0.174+	0.064	-0.117	0.034	-0.051
Co (非協調的)	-0.128	-0.043	0.094	-0.102	-0.035	0.090	0.026	-0.174+	-0.083	-0.004	-0.009	-0.143	-0.061	0.164+
Ag (攻撃的)	0.033	-0.027	0.165+	-0.049	-0.173+	-0.036	-0.058	0.158+	0.107	-0.021	0.081	-0.025	-0.076	0.117
G (活動的)	-0.068	0.056	-0.107	0.124	-0.138	-0.122	-0.103	0.200*	0.058	-0.012	0.166+	0.049	-0.037	0.056
R (のんき)	0.089	0.111	0.053	-0.070	-0.177+	-0.056	-0.173+	0.070	-0.069	-0.004	0.270*	0.033	-0.023	0.077
T (思考的外向)	0.021	0.054	0.081	-0.016	-0.001	-0.136	-0.165+	-0.149	-0.071	0.096	-0.032	0.080	-0.058	0.136
A (支配性)	0.036	0.059	0.019	0.111	-0.220*	-0.072	-0.119	0.132	0.076	0.011	0.024	0.102	0.012	0.016
S (社会的外向)	-0.001	0.044	0.063	0.051	-0.108	-0.020	-0.142	0.057	-0.051	0.022	0.117	0.173+	0.043	0.013
					P < . 1 0		P < . 0 5		P < . 0 1					

Table 3 S C T - B の反応パターンと Y - G (女性)

	肯定否定	肯定肯定	否定否定	例外	受容	拒絶	理想現実	期待不安	過去現在	希望	不安	決意	自己	説明
A 系統値	-0.127	0.050	-0.113	0.089	0.014	-0.001	0.160+	-0.132	0.047	-0.065	0.075	-0.012	-0.197*	0.070
B 系統値	0.098	-0.019	0.138	0.039	-0.039	-0.028	-0.160+	0.172+	-0.125	-0.083	-0.024	-0.141	0.107	-0.011
C 系統値	-0.007	-0.050	-0.052	-0.088	0.024	0.032	0.020	-0.066	0.099	0.160+	-0.053	0.171+	0.075	-0.053
D 系統値	0.007	0.088	0.019	0.116	-0.066	0.096	-0.018	0.100	0.169+	-0.026	0.008	-0.139	0.044	-0.064
E 系統値	0.055	-0.139	0.055	-0.163+	0.062	-0.093	-0.086	-0.018	-0.196*	0.073	-0.069	0.142	0.097	0.028
D (抑うつ性)	0.099	0.003	0.040	-0.058	-0.009	-0.031	-0.045	0.106	-0.234*	0.065	0.023	-0.090	0.030	-0.009
C (気分の変化)	0.122	-0.045	0.030	-0.011	-0.063	-0.109	-0.092	-0.062	-0.222*	0.092	-0.010	-0.077	0.011	0.019
I (劣等感)	-0.050	0.066	0.220*	-0.102	-0.044	-0.100	-0.050	0.094	-0.086	0.063	0.051	0.074	0.118	-0.078
N (神経質)	0.043	-0.095	0.151+	-0.065	0.061	-0.064	-0.038	0.067	-0.084	-0.069	0.037	-0.013	-0.037	0.000
O (主観的)	0.130	-0.045	0.142	0.061	0.038	-0.037	-0.063	-0.064	-0.254**	0.052	-0.039	-0.165+	-0.066	-0.031
Co (非協調的)	-0.021	-0.126	0.000	-0.119	0.029	-0.145	0.186*	0.029	-0.027	-0.085	-0.086	-0.059	0.058	0.027
Ag (攻撃的)	-0.152+	-0.039	0.121	0.063	-0.063	0.047	-0.051	0.010	-0.016	0.049	-0.017	-0.107	0.081	0.102
G (活動的)	-0.194*	-0.045	0.065	0.037	0.017	0.033	0.005	0.024	0.078	-0.025	0.010	-0.037	-0.064	0.177+
R (のんき)	-0.069	0.081	0.030	0.178+	-0.009	0.085	0.015	0.023	-0.023	-0.102	0.048	-0.180+	-0.007	-0.019
T (思考的外向)	0.039	0.007	-0.164+	0.064	-0.100	-0.015	0.079	-0.143	-0.001	-0.030	-0.120	-0.060	0.003	0.065
A (支配性)	0.006	0.059	-0.011	-0.027	-0.003	0.079	0.016	0.158+	0.032	-0.190*	0.030	-0.166+	0.012	0.052
S (社会的外向)	-0.000	0.086	-0.025	0.062	-0.035	0.027	-0.062	0.123	0.100	-0.165+	-0.141	-0.106	0.009	0.074
					P < . 1 0		P < . 0 5		P < . 0 1					

* 〈否定否定〉

このパターンは全体でI（劣等感）、O、Ag（攻撃的）の3つの因子、B系統値と正相関があり、女性でIと正相関がある。また、女性ではN（神経質）と正の傾向、T（思考的外向）と負の傾向、男性でAgと正の傾向がある。これらの結果から否定否定パターンを多用する女性は劣等感が強く、心配症でよくよ悩むタイプの人のようである。男性でははっきりした結果は出てないが、全体としては劣等感が強く、空想的だが自尊心が強く攻撃的な人というイメージになる。MMP Iでは男性でF尺度、分裂病尺度（Sc）と正相関があったが、強い劣等感と自尊心の共存という点や空想的という点で、関連性が考えられる。但し、Y-Gでは、全体としてそのような結果になっており、この点については今後も検討する必要がある。

* 〈例外〉

このパターンは全体でIと負相関がある。また、全体でCo、E系統値、男性でIと負の傾向、女性でR（のんき）と正の傾向、E系統値と負の傾向がある。したがって、このパターンは自信と関係しているようである。男女別で考えれば、男性の場合は自信の強さが目だつ人であり、女性の場合は行動的で気軽な人という傾向が考えられるが、有意な相関ではないのではっきりとは言えない。このパターンはMMP Iでは全体で軽そう病尺度と正相関があり、男性では抑うつ尺度、社会的内向性尺度と負相関、女性ではL尺度と負相関があった。この結果はY-Gでは劣等感の低さが前面に出て、MMP Iでは抑うつ傾向の少なさが前面に出ている違いはあるが概ね似通ったものと考えることができる。

* 〈受容〉

このパターンは男性でA（支配性）と負相関がある。また、男性ではAg、Rと負の傾向、全体でAと負の傾向がある。したがって、従順で慎重な男性がこのパターンを多用するものと思われる。

* 〈理想現実〉

このパターンは女性でCo（非協調的）と相

関がある。また、女性ではA系統値と正の、B系統値と負の傾向があり、全体ではS（社会的外向）と負の傾向、男性ではR、Tと負の傾向、E系統値と正の傾向があった。したがって、このパターンは現状否定的で不満感の強い女性に用いられやすいものと思われる。全体的には社交的でない人、男性ではじっくり考えるタイプの人に用いられる傾向があるが、これらは有意な相関ではないので、女性の場合のようにはっきりとは言えない。

このパターンはMMP Iでは少し異なった結果が出ている。MMP Iでは全体で男性性に関係し、男性では心気症尺度、精神衰弱尺度と負相関がある。すなわち、MMP Iでは楽天的で自信のある男性が、また全体としては男らしい人がこのパターンを用いるという結果である。現状否定的な女性と男性的な女性は多少結び付くが、Y-Gではどちらかといえば社交的でない男性のイメージがMMP Iでは細かいことを気にしないイメージであり少し隔たりがある。この点に関しては、被検者集団、テストの性質の違いが考えられるが、今後の検討が必要と思われる。

* 〈期待不安〉

このパターンは全体でTと負相関、Aと正相関があり、男性でDと負相関、Gと正相関がある。また、全体ではD系統値と正の傾向、女性ではB系統値、Aと正の傾向があり、男性ではAgと正の傾向、Coと負の傾向がある。従って、男性では、活動的で楽天的、現状肯定的な人がこのパターンを用い、全体的には自己顕示欲が強く指導的だがじっくり考えるタイプの人がこのパターンを用いるようである。

* 〈過去現在〉

このパターンは全体と女性でD、C、E系統値と負相関があり、加えて女性ではOとも負相関がある。また、全体でA系統値と正の傾向、B系統値と負の傾向、女性ではD系統値と正の傾向、A系統値と正の傾向、Cと負の傾向がある。この結果は明らかに女性の結果が全体の結果に反映されたものであり、充実感、安心感があり客観的な女性がこのパターンを多用するも

のと思われる。このパターンはMMP Iでは全体でヒステリー尺度と、男性で軽そう病尺度と負相関があった。この結果を加味して考えると、現実的で落ち着いた人が自らの過去と現在の違いを冷静に記述できるということになる。

* 〈希望〉

このパターンは女性でAと負相関がある。また、女性ではC系統値と正の傾向、Sと負の傾向、男性でOと負の傾向がある。したがって、非社交的で従順な女性がこのパターンを用いる傾向が伺える。MMP Iでは全体でも軽そう病尺度と負相関があったが、特に男性では抑うつ尺度とも正相関があり、抑うつ的な男性がこのパターンを用いる傾向がみられた。これらのことから、女性はY-Gで測定される従順さ、男性はMMP Iで測定される抑うつとこのパターンは関係しているようである。

* 〈決意〉

このパターンは全体でOと負相関、C系統値と正相関、男性でA系統値と負相関、D系統値と正相関がある。また、全体でA系統値、Dと負の傾向があり、男性ではSと正の傾向、女性では、C系統値と正の傾向、O、R、Aと負の傾向がある。従って、全体としては物静かで常識的な人がこのパターンを用いるようで、女性にその傾向がみられるようである。しかし、男性では情緒的に安定していて活動性のある社交的な人がこのパターンを用いるようである。ところが、MMP Iでは全体で神経衰弱(Pt)尺度と正相関がある。Pt尺度は疑い深さ、強迫的思考、強迫的行為等との関連を示唆するものである。Y-Gでは消極的だが情緒的には安定していて、常識的な人がこのパターンを用いるのと比べるとPt尺度との相関は不思議な感じもするが、Pt尺度の高い人は良心的で、根気強く、思いやりがあるという一面もあり、Y-Gではこのポジティブな性格として捉えられる人がMMP Iでは強迫神経症と関連付けられるものと思われる。

* 〈自己〉

このパターンは全体と女性でA系統値と負相関があるだけである。A系統値は12因子の内

で平均的な得点の因子が幾つあったかということであり、これと負相関があるということは、平均的な得点が少なかったということの意味するが、他の因子などと相関がなければそれ以上のことは言えない。MMP Iでは全体でパラノイア尺度との相関があり、妄想との関連が示唆されたが、Y-Gではそれに相当する因子はないのでこのような結果になったものと思われる。

* 〈説明〉

このパターンは全体でA系統値と正相関がある。また、全体でGと正の傾向、男性でA系統値、Cと正の傾向、女性でGと正の傾向がある。従って、全体としては平均的な性格の人がこのパターンを用いるといえるだろう。

以上のように、SCT-Bの各反応パターン毎にY-G性格検査との相関を検討してみると、Y-Gは正常人、MMP Iは精神病や神経症の病理との共通性を測定するテストという目的の違いが浮き彫りにされた面もあるが、MMP Iと似通った面もあった。しかし、男女別で検討してみると、希望のように女性はY-G、男性はMMP Iで特徴がでるというケースもあり、より詳細に検討ができた。これからも、性差の検討はできる限り行う必要があるし、集団間の差についても慎重に取り扱っていく必要があるものと思われる。

参考文献

- Graham, J.R. 1977 田中訳 「MMP I - 臨床解釈の実際」
小林哲郎 1985 SCT-Bの評定について 金沢美術工芸大学学報 第29号 35-44
小林哲郎 1985 SCT-Bの評定について - 評定者間の評定の一致率の検討 - 日本心理学会第49回大会発表論文集 240
小林哲郎 1986 SCT-Bの評定について - 項目別の反応パターンの検討 - 金沢美術工芸大学学報 第30号 39-45
小林哲郎 1986 SCT-Bの反応パターンとY-G 日本心理学会第50回大会発表論文集 589
小林哲郎 1987 SCT-Bの反応パターンとMMP Iとの関係について 金沢美術工芸大学学報 第

31号 39-45

小林哲郎 1987 S C T-B 反応パターンと集団 T
A T 日本教育心理学会第 29 回総会発表論文集
956-957

小林哲郎 1988 S C T-B 反応パターンと集団
ロールシャッハ 日本心理学会第 53 回大会発表論文
集 131

八木俊夫 1987 Y G 性格検査 日本心理技術研究
所

(平成元年10月16日受理)